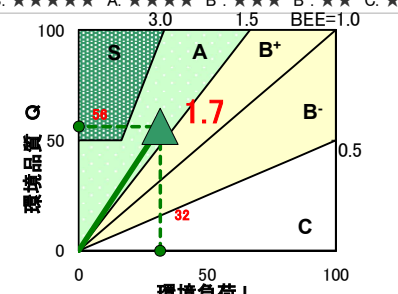
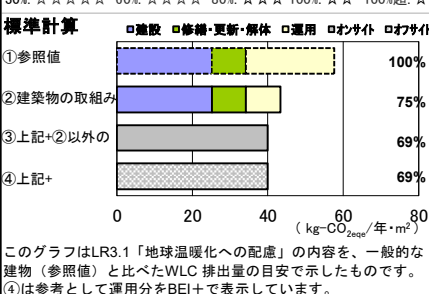
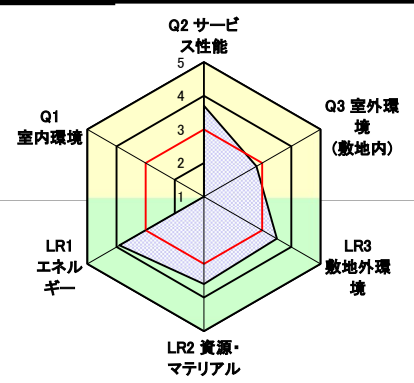


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	LOGIQ厚木新築工事[東棟]	階数	地上2F
建設地	神奈川県厚木市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	131 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2025年9月4日
敷地面積	17,243 m ²	作成者	株式会社アステック・級建築士事務所 白川健治
建築面積	9,630 m ²	確認日	2025年9月5日
延床面積	19,038 m ²	確認者	コンストラクション・マネジメント・ジャパン株式会社 猪俣茂久

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.7 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q のスコア = 3.2
Q1 のスコア = 0.0	Q2 のスコア = 3.7	Q3 のスコア = 2.8	
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR のスコア = 3.7
LR1 のスコア = 3.9	LR2 のスコア = 3.6	LR3 のスコア = 3.5	

3 設計上の配慮事項		
総合		
施設にかかわるすべての人・事業者・地域・環境にやさしい施設とすることで未来につながり社会に貢献できるインフラとしての機能を発揮する「ロジスティクスセンター」を目指す。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
	耐用年数の長い内装仕上げ材、配管類を採用している。空間、荷重にゆとりがあり将来的な変更の対応性を高めている。天井スペース、点検口、ケーブルラックにより空調配管、電気・通信配線の更新に備えている。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率な設備システムに加え太陽光発電システムを導入しBELm=0を達成している。	節水器具とリサイクル材を採用、建物解体時のリサイクルの促進対策をとっており、水資源、非再生資源の保護に努めている。有害物質を含まない建材種別があることを確認している。	燃焼機器を採用しておらず、大気汚染を発生させない建物となっている。「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしており、光害の抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
LOGI'Q厚木新築工事[東棟]

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	-	-	
1.2 遮音		-		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		-	-	-	-	
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	
1 室温		-		-	-	-	-	
2 外皮性能		-		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-		-	-	-	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	
1 昼光率		-		-	-	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-		-	-	-	-	
1 昼光制御		-		-	-	-	-	
3.3 照度		-		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-		-	-	-	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-		-	-	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	
1 換気量		-		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.7
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-	
3 内装計画		-		-	-	-	-	
1.3 維持管理				-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		カーペット(床)、ビニルクロス貼(壁):20年		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		硬質塩化ビニル管(給水・汚水)、配管用炭素鋼管白(消火)		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		重要設備を耐震クラスAとしている		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.4	0.50	-	-	4.4
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
		1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 < 0.1	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	設計荷重4500N/㎡以上	5.0	0.30	3.0	-		
	3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
		1 空調配管の更新性	天井スペースの確保により仕上り材を傷めずに更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	ケーブルラックにより仕上り材を傷めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	ケーブルラックにより仕上り材を傷めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
		5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.8
	1 生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-			
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	3.0	0.13	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	BEI _{lm} =0(モデル建物法・太陽光発電を含む)	5.0	0.63	-	-	5.0		
	集合住宅以外の評価	5.0	1.00	-	-			
	集合住宅の評価	-	-	-	-			
4 効率的運用に向けた取組み		1.8	0.25	-	-	1.8		
	集合住宅以外の評価	1.8	1.00	-	-			
	4.1 モニタリング	-	2.0	0.40	-			
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.40	-			
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-			
	4.4 コミッショニングの推進	-	3.0	0.10	-			
	集合住宅の評価	-	-	-	-			
	4.1 モニタリング	-	-	-	-			
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6	
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4		
	1.1 節水	節水コマに加え、節水型便器、自動水栓を採用している	4.0	0.40	-			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-			
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-			
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-			
2 非再生性資源の使用量削減		3.7	0.60	-	-	3.7		
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材(床)、タイルカーペット(床)、断熱材(外壁)	5.0	0.20	-			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	下地にLGSの採用、再利用可能ユニットの使用	5.0	0.20	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ガラス用シーリング、防水プライマー、塗膜防水、塗床材	5.0	0.30	-			
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-			
	1 消火剤	-	-	-	-			
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-			
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮	ホールライフカーボン排出率:69%	4.2	0.33	-	-	4.2		
2 地域環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3		
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-			
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-			
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-			
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-			
	3 交通負荷抑制	-	2.0	0.25	-			
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-			
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1		
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-			
	1 騒音	-	3.0	1.00	-			
	2 振動	-	-	-	-			
	3 悪臭	-	-	-	-			
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-			
	1 風害の抑制	風害対策に対する要請がない	3.0	0.70	-			
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-			
	3 日照阻害の抑制	日影規制がない地域である	3.0	0.30	-			
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-			
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす	4.0	0.70	-			
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-			

CASBEE-建築(新築)2024年版

LOGI'Q厚木新築工事[東棟]

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0	-	2.0	-	3.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0	-	-	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)			-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	-
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC	ηAH	-
屋光率	0.0%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡						
天井高	0 m						
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%				
想定耐用年数	0 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	20 年						
想定必要間隔	0 年						
階高	6.4 m						
壁長さ比率	6.0%						
床荷重	15000 N/m2						

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

外構緑化指数	67%	建物緑化指数	0%									
空地率	45%	水平投影面積率	12%	地表面対策面積率	35%	舗装面積率	25%					
BPI/BPI _m	- 断熱等性能等級		0 相当									
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数			0.0%	採光を満たす住戸数		0.0%				
		通風を満たす教室数			0.0%	通風を満たす住戸数		0.0%				
		太陽光	1,425.1kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kWh					
BEI/BEI _m	再エネ有	-	無	0.39	オフサイト再エネ有				-	○	○	GJ/年
一次エネ削減率	再エネ有	#####	無	#####					-			

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	ビニル系床材、断	エコマーク商品	タイルカーペット	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		96% 隣棟間隔指標Rw 1.69																	
地表面対策面積率		52.0%		屋根面対策面積率		#DIV/0!		外壁面対策面積率		#DIV/0!									
見付面積Sb		2,241㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		175.386 m		基準高さHb		13.208 m									
緑地		3,127㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	